



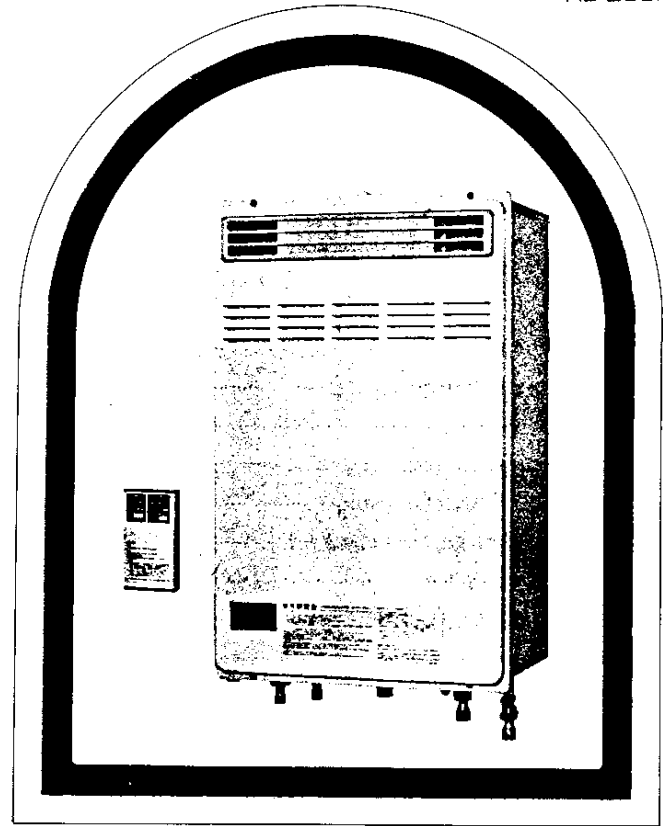
ガス給湯暖房機 シンプルシステム
(エックスMARKII)

取扱説明書

44-721・722型
44-723 型

保証書付

型式名 AD-205RFA-B
AD-205RFA-C
AD-205FFA-B



●ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター

本社	〒541 大阪市東区平野町5丁目1	大阪	06 (202)2221
南支社	〒557 大阪市西成区玉出東2丁目9番41号	大阪	06 (652)0001
北支社	〒532 大阪市淀川区十三本町3丁目6番35号	大阪	06 (301)1251
堺支社	〒590 堺市住吉横町2丁目2番19号	堺	0722(38)1131
北摂支社	〒569 高槻市藤の里町3番6号	高槻	0726(71)0361
阪神支社	〒662 西宮市和上町4番11号	西宮	0798(26)3101
東部支社	〒578 東大阪市稲葉2丁目3番17号	河内	0729(62)1131
京阪支社	〒573 枚方市西田宮町1番17号	枚方	0720(41)1251
神戸支社	〒650 神戸市中央区相生町5丁目13番10号	神戸	078(576)5231
京都支社	〒604 京都市中京区烏丸御池橋屋町358	京都	075(1231)8151
奈良支社	〒631 奈良市宇賀北2丁目4番1号	奈良	0742(44)1111
和歌山支社	〒640 和歌山市本町1丁目1-1	和歌山	0734(31)2481
姫路支社	〒670 姫路市神屋町4丁目8	姫路	0792(85)2221
東播支社	〒675 加古川市加古川町豊津29-1	加古川	0794(24)1801
豊岡支社	〒668 豊岡市三坂町6丁目57番地	豊岡	07962(3)2221
湖南支社	〒525 岸津市岩分町字荒尾680の1	岸津	0775(62)5311
彦根支社	〒522 彦根市大東町12-11	彦根	0749(22)3131
長浜営業所	〒528 長浜市南浜町3番4号	長浜	0749(62)7171

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社

ごあいさつ

このたびは、大阪ガス給湯暖房シンプルシステム
〈**エックスMARK II**〉を、お求めいただきま
して、ありがとうございます。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に
保存してください。

も く じ

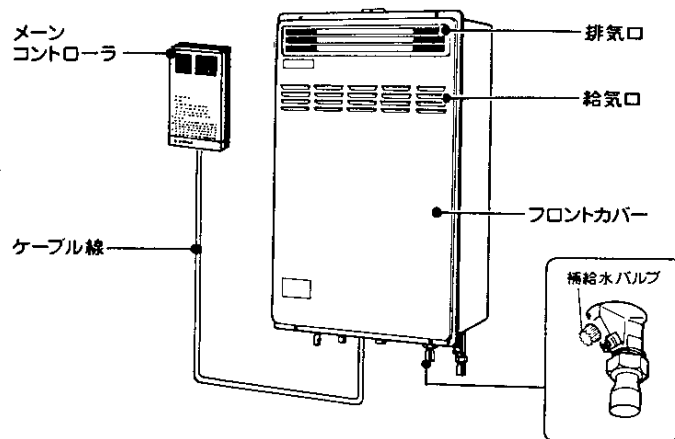
- 各部の名称 1
- 特に注意していただきたいこと 3
- 使用手順 7
- 冬期の凍結による破損防止について 13
- 本製品と快適な暮らしのために 16
- 安全装置が作動したときの処置方法 17
- 日常の点検・手入れ 19
- 故障・異常の見分け方と処置方法 20
- 仕様 21
- 外形寸法図 22
- 長期間使用しない場合 24
- アフターサービスのお申し込み 25

各部の名称

外観・構造

●扉直付設置

44-721型(型式AD-205RFA-B)

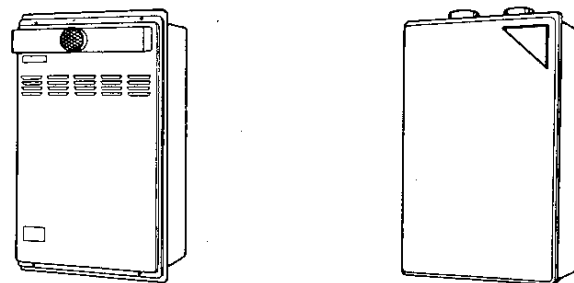


●扉内設置

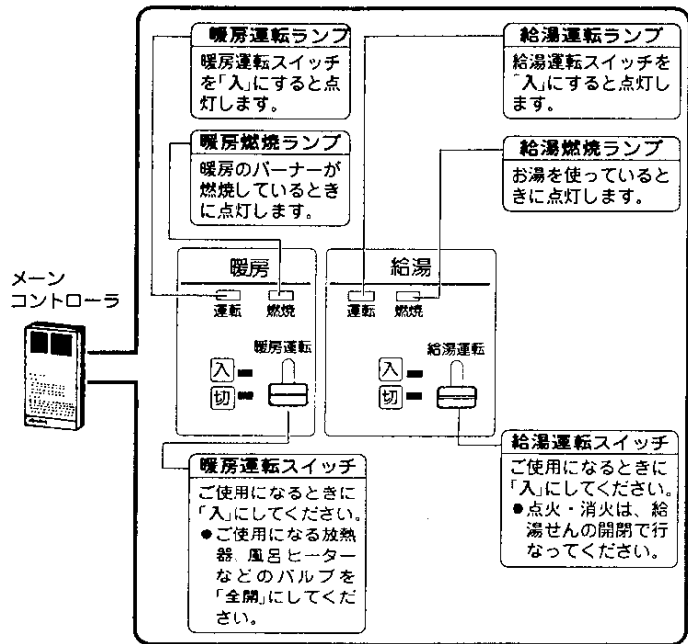
44-722型(型式AD-205RFA-C)

●扉内設置

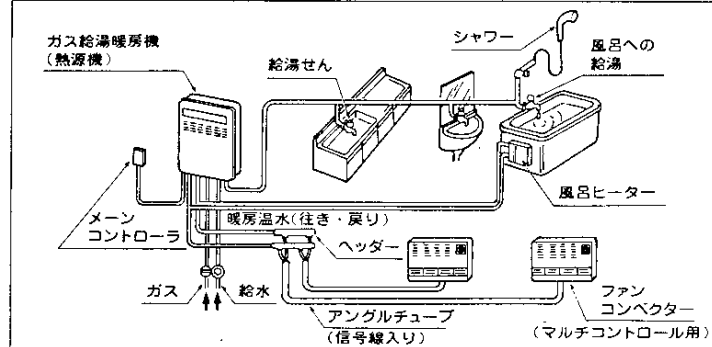
44-723型(型式AD-205FFA-B)



各部の名称②



ガス給湯暖房システム<エックスMARKII>(44-721)の概要



特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくためにこの項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

- ガスの種類を確かめてください。

給湯暖房機(以下熱源機)本体前面下部または、右側面下部にはある銘板(ラベル)に表示のガスの種類と、お宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。

メーカー型式

ガス種類およびグループ

ガス消費量
製造年月日および製造番号
製造業者名

- 都市ガス用6C
- 都市ガス用6A
- 都市ガス用13A
- LPガス用

- ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスには、ガスグループの区分があります。

- 転宅されたときにも、供給ガスの種類と熱源機銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

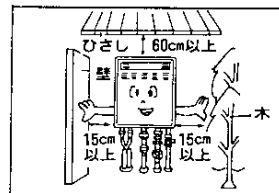
使用電源についてのご注意

- 電源の電圧と周波数を確かめてください。

この熱源機はAC100V、60ヘルツ用です。熱源機の銘板に表示してある電源(電圧・周波数)とお宅の電源の電圧と周波数が一致しているかお確かめください。

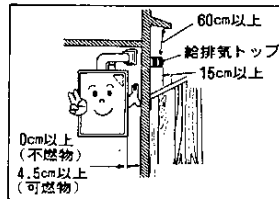
使用場所についてのご注意

- 壁、その他の可燃物から十分離れている場所で使用してください。



- 扉直付設置型・扉内設置型は、屋外専用の熱源機です。屋内には絶対取り付けしないでください。排気ガスが充満して危険です。

- 屋内設置型は、屋内専用の熱源機です。屋外には絶対取り付けしないでください。



特に注意していただきたいこと②

用途についてのご注意

- 台所・シャワー・洗面などの給湯および温水暖房、間接追ひ焚き以外の用途には使用しないでください。

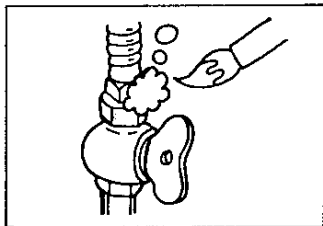
市販の補助用具使用についてのご注意

- この器具用の付属品・補助用具以外は使用しないでください。
(不完全燃焼などの原因になります)

使用上のご注意

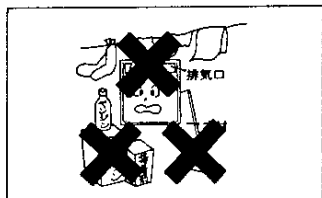
(1) ガス漏れ予防

- 使用後は、燃焼確認ランプが消えたことを確かめてください。
- 長期間使用しないときは、必ず運転スイッチを切り、ガス元せんを閉めてください。
- 配管や熱源機との接続部からガスが漏れていないか、ときどき石けん水などで調べてください。



(2) 火災予防

- 熱源機の上や周囲には燃えやすいものを置かないでください。
特に、排気口は洗たく物などでおおわないでください。



(3) 火傷にご注意

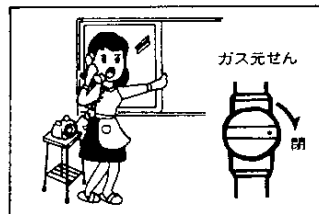
- 使用中および消火直後は、熱源機の排気口や、排気筒が高温になっていますので、絶対に手を触れないでください。



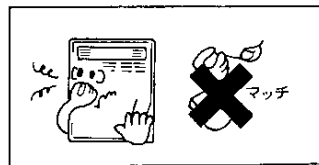
特に注意していただきたいこと③

(4) ガス事故防止

- ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉め、お買い求めのガスサービスショップ、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。



- 万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具に触れたり(スイッチの入、切や電源プラグの抜き差しなど)しないでください。火や火花で引火し爆発事故をおこすことがあります。



(5) 凍結についてのご注意

- 冬期は、寒冷地だけでなく、暖かい地方でも急な寒波のため熱源機及び配管内の水が凍って、熱源機または配管を破損することがあります。
詳しくは、13～16ページの「冬期の凍結による破損防止について」をお読みください。

(6) 異常時の処置

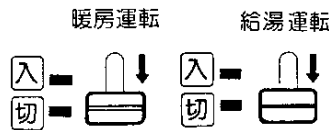
- 万一、熱源機が異常燃焼(バーナー着火時や使用中に“ゴー”と音のするような燃焼)をおこしたときや、緊急の場合には、下図の処置をし、お買い求めのガスサービスショップまたはもよりの大阪ガス支社に連絡してください。

1. 給湯せんを閉める。



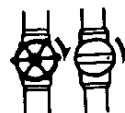
お湯の使用場所

2. 運転スイッチを「切」にする。



メインコントローラ

3. 給水元せんガス元せんを閉める。



器具の下部

特に注意していただきたいこと④

(7) たまった水は飲まないでください

- 熱源機内に長時間たまった水は飲用または調理に用いないでください。

(8) アース(接地)のご確認

ご使用前に、次のいずれかの方法で正しくアースされていることを必ずお確かめください。

- 分電盤内のアース端子へアース線が接続されているか。

- アース棒を使用しているか。

- コンセントのアース端子へアース線が接続されているか。

[ご注意] 漏電しゃ断器付ブレーカから本体に配線されていることを確認してください。

ポンプの固着予防について

- 暖房シーズンオフ時に、給湯をお使いになると温水循環用ポンプが約30秒運転することがありますが、ポンプの固着予防のため異常ではありません。

日常の点検・手入れ

- 日常の点検・手入れは、必ず行なってください。
(詳しくは19ページをお読みください)
- 故障または破損したと思われる場合は、お買い求めの販売店またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご相談ください。不完全な修理は危険です。

熱源機の設置について

(詳しくは工事説明書をお読みください)

- 熱源機の設置は、お買い求めのガスサービスショップ、またはもよりの大阪ガス支社に依頼してください。
- 安全な位置に正しく設置されているか確認してください。

使用手順

点火前の準備と確認

1. 給水元せんを全開にしてください。
2. 給湯せんを開け、水の出ることを確認してから閉めてください。
3. ガス元せんを全開にしてください。
4. 器具用のブレーカを「入」にしてください。



器具の下部



お湯の使用場所



器具の下部



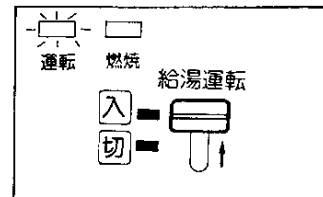
屋内の分電盤

給湯の使い方

点火

① メーンコントローラ給湯運転スイッチを「入」にします

(給湯運転ランプ(緑色)が点灯します)



② 給湯せんを開けます

- バーナーに点火し、お湯が出ます。

(点火と同時に、給湯燃焼ランプ(赤色)が点灯します。)



[注] 給湯燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、お湯になりません。

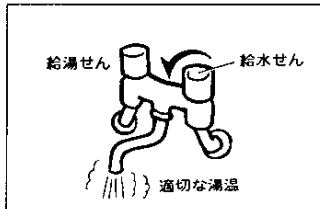
このような場合は、いったん給湯せんを閉め、給湯運転スイッチを「切」にし再び「入」にしてください。給湯せんを開け、約7秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスをストップし、給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。

使用手順②

湯温調節

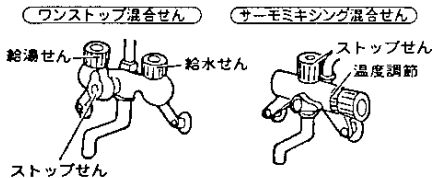
混合せんで湯温を調節します。

- 給水せんで徐々に開き、適切な出湯温度になるように調節してください。
- 湯量の調節は、水道を使用される要領で給湯せんで調節してお使いください。

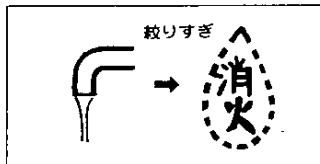


〔注〕この器具は高温出湯タイプ(約60℃)になっていますので必ず混合せんで湯温を調節してご使用ください。

- 混合せんにはいろいろな種類がありますが右のようなタイプが使いやすいのでおすすめします。(ストップせんで開くだけでセットされた温度の湯が出てきます)

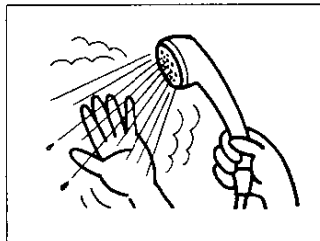


- 熱源機からの湯量を約3ℓ/分以下に絞りますと、メインバーナーの火が消えるようになっていきます。



- シャワーをご使用のときは、いきなり体や頭にはかけずに、手で湯温を確認してからお使いください。

(シャワーをお使いになってお湯を止めた直後、再度お使いになるときや、湯量を急に絞ったときには、一瞬熱い湯が出ることがあります。)



使用手順③

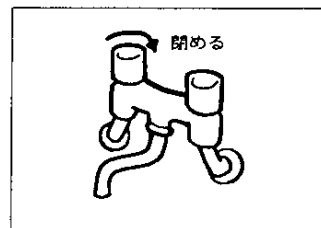
〔注〕

- 給湯せんで湯量を調節しますと、水の中の空気が分離して、気ほうとなり、湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配はありません。
- 2ヵ所でも同時使用されますと、ぬるくなったり、湯量が少なくなることがあります。特にシャワー使用中は同時使用はやめてください。
- 冬期など水温が低い時、高温がとれない場合は、給湯せんで絞ってお使いください。

消火

①給湯せんで閉めます

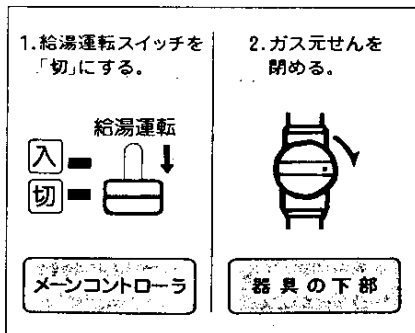
- お湯が止まり、バーナーが消火し、給湯燃焼ランプ(赤色)が消えます。



お出かけや、おやすみの際など

②長時間使用しない場合

- 給湯運転スイッチを「切」にし、ガス元せんで閉めてください。(給湯燃焼ランプ(緑色)が消えます)



使用手順④

暖房の使い方

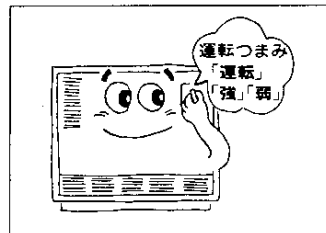
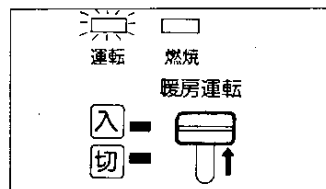
点火

①バルブを全開にします

- 暖房配管またはご使用になるファンコンベクター、風呂ヒーターなどのバルブを全開にしてください。ファンコンベクターに電動弁を使用している場合は、ファンコンベクターの切替スイッチを「ON」にすると自動的に「開」になります。

②メインコントローラ暖房運転スイッチを「入」にします

- 暖房運転スイッチを「入」にしてください。
- 暖房運転ランプ(緑色)が点灯し、自動的に熱源機が運転に入り、パーナーに着火し暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯します。
- ご使用になるファンコンベクターの運転つまみを「運転」もしくは「強」か「弱」にお合わせください。しばらくしてファンが回り、暖かい空気が出て室内を暖房します。



- [注] ファンコンベクターの運転つまみを急に「停止」にすると、「コトン」という音がすることがあります。運転つまみはゆっくりと操作してください。

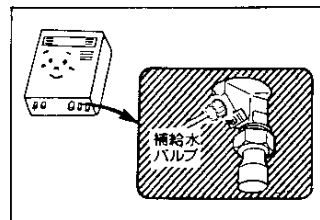
※マルチコントロールシステムの場合

- ①暖房運転スイッチを「切」のままで、ご使用になるファンコンベクターの運転つまみを「運転」もしくは「強」か「弱」にお合わせください。自動的に熱源機が運転に入り、パーナーに着火しファンコンベクターの運転ランプが点灯します。
- ②この時、メインコントローラの暖房運転ランプ(緑色)、暖房燃焼ランプ(赤色)が同時に点灯します。

使用手順⑤

[注]

- 運転開始以降しばらくすると給湯の使用状態や端末機器の使用状態によりパーナーの点火・消火が始まり、暖房燃焼ランプ(赤色)、ファンコンベクターの運転ランプが、それとともなって、点灯、消灯を繰り返すことがあります。
- 暖房にご使用になる端末機器は、用途、タイプによって操作方法が若干変わることがありますので、それぞれに付属の取扱説明書もあわせてお読みください。
- メインコントローラの暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、暖房運転スイッチを「切」にし、補給水タンクに水を補給してください。補給水タンクの水は蒸発しますので約1ヵ月に1度くらい水を補給してください。



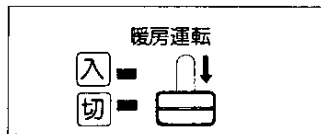
- 熱源機底面の補給水バルブを開け、オーバーフロー(溢水口)から水が流れ出すまで補給してください。
- 各ファンコンベクターの運転ランプ又は暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは燃焼していません。このような場合は、いったんメインコントローラの運転スイッチを「切」にし、しばらく待ってから暖房運転スイッチを「入」にしてください。
〔暖房運転スイッチを「入」にして、約10秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスをストップし、暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。〕
- 室温が高い場合には、暖房運転スイッチを「入」にしても暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯しない場合があります。
- ファンコンベクターの空気抜き弁、水抜きせんは絶対に開けないでください。
〔特に2階にファンコンベクターを設置されている場合は、空気抜きを行ったり、加湿用の水をファンコンベクターから取ると、暖房配管の水が抜けてしまい、運転できなくなりますから注意してください。この場合は暖房運転ランプ(緑色)、と暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅します。〕

使用手順⑥

消火

① 暖房運転スイッチを「切」にします

- バーナーが消火し、暖房燃焼ランプ(赤色)・暖房運転ランプ(緑色)が消えます。



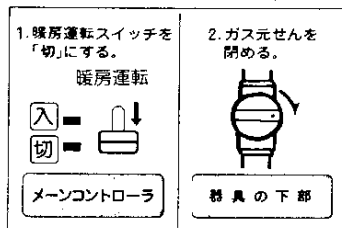
※マルチコントロールシステムの場合

- すべてのファンコンベクターの運転つまみを「停止」の位置に戻してください。運転ランプが消え、同時にメインコントローラの暖房運転ランプ(緑色)、暖房燃焼ランプ(赤色)が消えます。

※お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

- 暖房運転スイッチを「切」にし、ガス元せんを閉めてください。
[暖房運転ランプ(緑色)が消えます]



停電後の使用方法

- 停電すると自動的にガスが止まり、給湯・暖房とも燃焼が停止します。
- 再通電したときは、給湯・暖房とも自動的に復帰し、再燃焼します。
- 長時間停電したときは、念のため給湯せんを閉めて、給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチを「切」にしてください。
- 再通電したときは、7ページおよび10ページの「点火」に従って操作してください。

断水の場合

- 断水時は給湯せんを閉め、メインコントローラの運転スイッチを「切」にしておいてください。
- 再通水したときは、7ページおよび10ページの「点火」に従って操作してください。

冬の凍結による破損防止について(寒い地域でご使用のお客様も必ずお読みください。)



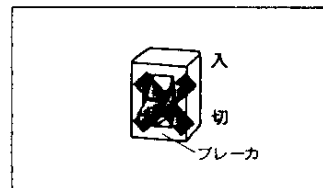
- 凍結すると熱源機や給湯配管が破損して、水漏れをおこしたり、熱源機が異常(空だきなど)をおこす危険があります。
- 凍結による修理は有料です。

凍結防止方法

給湯

① 凍結予防ヒーターによる方法

- この熱源機には、外気温が0℃近くになるとサーモスタットの働きで自動的に熱源機内を保温する凍結予防ヒーターを組み込んでいます。



- 凍結予防ヒーターは分電盤のブレーカが「切」になっていると作動しません。絶対にブレーカを「切」にしないでください。

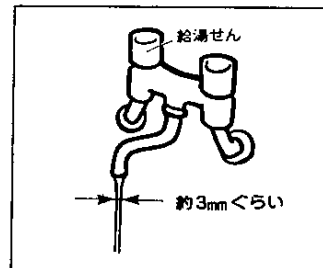
- 凍結予防ヒーターは、メインコントローラ運転スイッチの「入・切」に関係なく作動します。

[注] 外気温が極端に低く(庭のたまり水などが凍るおそれのある日)なりますと、この凍結予防ヒーターだけでは効果ありません。このような場合は、次の②または③の方法を行なってください。

② 給湯せんから水を流す方法

- ガス元せんを閉め、メインコントローラ運転スイッチを「切」にして、お風呂場の給湯せんを開け、1分間に約200cc(牛乳びん1本くらい)の水を浴そうに流し込んでください。

- 流量が不安定なことがありますので、念のため約30分後にもう一度流量をお確かめください。



冬の凍結による破損防止について②

㊦ 水抜きによる方法

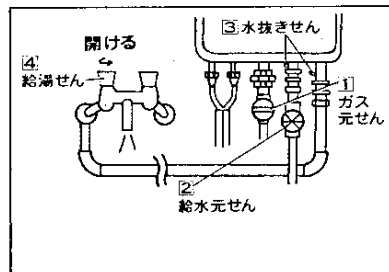
(長期間不在の場合、または非常に冷えこみの厳しいとき)

次の順序で行なってください。

- (1) 運転スイッチを「切」にし、ガス元せん①を閉める。
- (2) 給水元せん②をしっかりと閉める。
- (3) 水抜きせん③を開ける。(2本)
- (4) 給湯せん④を全開にする。

●給湯せん④と、水抜きせん③から水が抜けるのを確かめください。

●次にお使いになるまで、このままにしておいてください。



〈水抜き後の使用方法〉

- (1) 水抜きせん③を元通り、しっかりと閉める。(2本)
- (2) ガス元せん①を開めた状態、および運転スイッチを「切」にした状態で給水元せん②を開け、給湯せん④から水が出るのを確かめ、のち、給湯せん④を閉めてください。
- (3) 再使用するときは、7ページおよび10ページの「点火」に従って操作してください。

[注]

●もし凍結して水が出ないときは、使用をひかえ(給湯運転スイッチを「切」にした状態で)、給湯せん④を開け、水が出るまで待つてからお使いください。

冬の凍結による破損防止について③

暖房

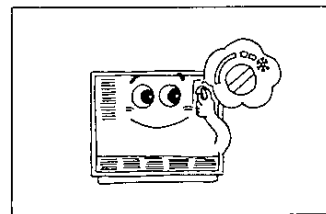
●冬季外気温が0℃以下になりますと熱源機や温水回路内の水が凍結し、破損することがあります。
配管や熱源機が破損しますと、水漏れなどで多大な被害を引き起こしますので、必ず不凍液を注入してください。暖房水に不凍液を使用することで凍結が防止できます。

●不凍液の濃度が下がってきますと、凍結防止の効果が弱くなってきますので、厳冬期には以下の操作をお願いします。

(1) 暖房運転スイッチを「切」にしてください。

(2) 各部屋のすべてのファンコンベクターの操作つまみを「※」にしてください。

(詳細については、ファンコンベクターの「取扱説明書」に従ってください。)



[注] 分電盤のブレーカは「切」にしないでください。気温が低いときは、自動的にポンプが回り凍結を防止します。

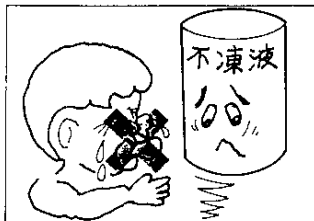
●不凍液について

- 不凍液は大阪ガス指定のものをご使用ください。指定以外の不凍液はシステムに影響を与える場合がありますのでご使用にならないでください。
- 不凍液濃度は地域、設置場所、気温などにより異なります。めやすとしてはファンコンベクター1台の場合は2缶です。(1缶は1ℓです。)
- 適正濃度を保つため1年に一度は暖房水全体を入れかえ不凍液を新たに注入する必要があります。不明な点はこちらの大阪ガスサービスショップもしくは、大阪ガス支社、サービスステーションまでご連絡ください。

冬の凍結による破損防止について④

- 不凍液の取扱い
- 幼児の手の届くところに置かないでください。
- 万一飲み込んだ場合には吐かせ、また皮膚についたり目に入った場合は、すぐ水洗いするなどの応急処置を行って医師に直ちに相談してください。
- 他の不凍液と絶対に併用しないでください。

- 一度開けた缶は残さず使いきってください。



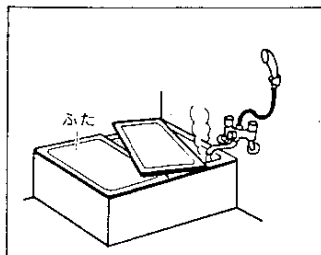
凍結したとき

- 凍結した場合、ガス元せん・給水元せんを開めてください。凍結したまま使われますと器具に異常が生じる場合があります。
- 凍結が溶けたあと、水漏れがないのを確認のうえご使用ください。
- 器具や配管が破損しますと、高額の修理費用がかかる場合があります。(有料)

本製品と快適な暮らしのために

風呂への給湯・沸き上げは……

- 給湯で湯を入れられる場合は、入浴される湯温より少し熱めて給湯し、浴そうにはふたをして、放熱ロスを防いでください。
- ご家族全員が続けて入れる頃に浴そうに給湯するか、もしくは沸き上がるようにすると経済的です。

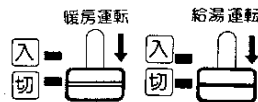


安全装置が作動したときの処置方法

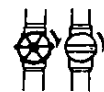
処置について

- 点火しなかったり、ご使用中にバーナーが消火したときは、20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従ってください。
- 次の安全装置が働いた場合には、その説明に従い再点火のできる安全装置は説明どおりに再点火して使用してください。また、それ以外の安全装置の場合は、運転スイッチを「切」にし、ガス元せん・給水元せんを閉めてからお買い求めのガスサービスショップまたはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

1. 運転スイッチを「切」にする。
2. 給水元せん・ガス元せんを閉める。
3. ガスサービスショップまたはもよりの大阪ガス支社へ



メインコントローラ



器具の下部



連絡

給湯バーナー安全装置

- 給湯バーナーの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、メインコントローラの給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、7ページの方法で再点火してください。

暖房バーナー安全装置

- 暖房のバーナーの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、ファンコンベクターの運転ランプ及び暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。
- このような場合は、10ページの方法で再点火してください。

空たき防止装置(暖房)

- 暖房回路の水が減りますと水位スイッチが作動して自動的に運転が止まり、暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。
- このような場合は、11ページの方法で補給水タンクに補給してください。

安全装置が作動したときの処置方法②

空だき安全装置 (給湯・暖房)

- 万一、バーナーの火が消えずに、湯温が異常温度上昇したときは、ガスを自動的に停止します。

過熱防止装置

- 万一、熱源機が異常温度上昇したときは、ガスを自動的に停止します。

電流ヒューズ

- 過電流が流れますと、自動的に運転を停止します。

過圧逃し弁 (給湯)

- 熱源機内の水圧が異常に上昇したときに作動し、熱源機内の圧力を下げて、熱源機の損傷を防止します。

停電時安全装置

- 使用中に停電になると停電用安全回路が作動し、ガスを自動的に停止し、運転が止まります。
停電後の使用方法については12ページをお読みください。

ファン電流検知装置

- 排気ファンモーターに電流が供給されていない場合にはファン電流検知装置により、ガスを自動的に停止します。

凍結予防ヒーター (給湯)

- 給湯回路の凍結を予防するために、低温になると働きます。
詳しくは、13ページをお読みください。

水流スイッチ

- 給湯量を約3ℓ/分以下に絞りますと、ガスを自動的に停止します。

日常の点検・手入れ

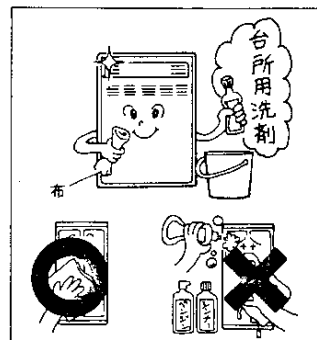
点検・手入れの前には、必ず給水元せんとガス元せんとを開め、メインコントローラの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、熱源機が冷えてから行ってください。

点 検

- 熱源機および配管よりガス漏れ、または水漏れはありませんか。
(ガス漏れは、配管接続部に石けん水などを付けて調べてください)
- 熱源機が古くなると熱交換器やバーナーにサビやスス、ほこり等がつかつたりします。また取り付け場所によりバーナーに「くも」が巣をはることがあります。このような場合不完全燃焼を起すことがあり、ときどき使用中に異常(異常音、排気に不快な臭い、目にしみる等)がないか確認してください。異常に気づかれた場合は、使用を中止し、ガスの元せんとを開めてお買求めのガスサービスショップまたは大阪ガス支社へご連絡ください。
- 熱源機の外観に異常は見られませんか。
- 熱源機のまわりに燃えやすいものはありませんか。

お手入れ

- 熱源機の表面が汚れたときは、布またはスポンジに台所用洗剤(中性洗剤)をつけてふき取ってください。シンナー・ベンジンなどではふかないでください。
 - メインコントローラ部の表面が汚れたときには、水を付けた布をかたく絞って、軽くふき取ってください。洗剤・シンナー・ベンジンなどは使用しないでください。
- [注] メインコントローラの内部には電気部品が入っていますので、ぬらさないようにしてください。



定期点検のおすすめ

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年1回程度の定期点検をおすすめします。お買求めのガスサービスショップまたはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止され、十分な点検をしてください。

現象	原因					処置方法	お	か
	○=主原因	△=原因	○	△	○			
ブレーカが「入」になっていない	○				○	ブレーカを「入」にする	*	ま
ガス元せんの開き不十分	△	△	○	△	△	ガス元せんを全開にする	*	ま
配管内に空気が残っている	△	△			△	点火操作を繰り返す	*	ま
ガス圧が適切でない	△	△	△	△	△	他のガス器具も同様の場合は点検を依頼する(他に原因がないとき)	*	ま
給水元せんの開き不十分	○	△	△			給湯せんをいったん閉めてから給水元せんを全開にする	*	ま
水圧が適切でない	○	△	△			点検を依頼する(他に原因がないとき)	*	ま
水フィルターの詰まり	△	△	△			詰まり除去または依頼する	*	ま
断水している	○					給湯使用をいったん中止する	*	ま
凍結している	○					解凍するまで使用を中止する	*	ま
バーナー炎口の詰まり	△	△	△		△	点検を依頼する	*	ま
熱交換器の目詰まり	△	△	△		△	点検を依頼する	*	ま
給湯せんの開き不足	△	△	△			給湯せんを全開にする	*	ま
ノズルの詰まり	△				△	点検を依頼する(他に原因がないとき)	*	ま
安全装置が作動した	○	○			○	点検を依頼する(度々作動する場合は)	*	ま
水流スイッチの故障	△	△	△	○		点検・修理・部品交換を依頼する(他に原因がないとき)	*	ま
電気部品の故障	○	△	△	○	○	点検を依頼する	*	ま
ポンプが回転しない					○	点検を依頼する	*	ま
水フィルター またはポンプのごみ詰まり					○	点検を依頼する	*	ま
補給水タンクの水不足					○	補給水タンクへ水を補給する	*	ま
燃焼ファンが回転しない	○				○	点検を依頼する	*	ま

処置方法や原因のわからないときは、お買い求めのガスサービスショップまたは大阪ガス支社へご連絡ください。

仕様

器 種 名		ガス給湯暖房機		
型 式 名		AD-205RFA-B	AD-205RFA-C	AD-205FFA-B
品 名		44-721	44-722	44-723
種 類	給湯方式	先止め式		
	暖房方式	温水循環方式		
	給排気方式	屋外強制排気方式	屋内強制給排気方式	
設 置 方 式	屋外設置方式		屋内設置方式	
点 火 方 式	電子イグナイタによる連続放電点火式			
着火方式	給湯	ダイレクト着火		
	暖房	ダイレクト着火		
外形寸法	本体	高さ750mm×幅480mm×奥行267mm		
	メインコントローラ	高さ160mm×幅90mm×奥行36mm		
重 量	本体	33kg(運転時37kg)		
	メインコントローラ	0.2kg		
水 圧	使用水圧	1kg/cm以上		
	作動水圧	0.2kg/cm		
最低給湯	32/分			
作動水量	0ℓ/分以上(締切り使用可)			
ポンプ機外揚程	4.0mH ₂ O以上(5ℓ/分のとき)			
温度給湯	電子式ガス比例制御方式			
制御方式	暖房	電子式ガス比例制御方式(同時使用時はON-OFF制御)		
温度調節	給湯	約60℃		
	暖房	(本体内で約50℃・約55℃・約65℃・約70℃に変更可) 約80℃		
給湯量制御方式	最大約8ℓ/分の定流量弁方式			
排気ファン	給湯	負荷によるHi-Lo制御		Hi一定
	暖房	負荷によるHi-Lo-OFF制御		負荷によるHi-OFF制御
制御方式	同 時	Hi一定(強回転)		
安 全 装 置	給湯バーナー安全装置・暖房バーナー安全装置・空だき防止装置・空だき安全装置・過熱防止装置・電流ヒューズ・過圧遮し弁・停電時安全装置・ファン電流検知装置・凍結予防ヒーター・水流スイッチ・誤導管保護装置			
	最大120W			
消 費 電 力	凍結予防運転作動時:132W(-10℃)			
接 続	ガ ス	P T _{3/4} オネジ		
	給 水 ・ 給 湯	給水・給湯配管用20Aソルダー継手付属(P F _{3/4})		
	暖 房	暖房配管用15Aソルダー継手付属(P F _{3/4})		
	オーバーフロー	P T _{1/2} オネジ		
	電 気	本体電源 AC100V 60Hz 3心(うち1心アース用) メインコントローラ~本体 DC24V 8心(うち7心使用)		
給排気接続口	吸気口φ90 排気口φ80 最大延長7m3曲り			
付 属 品	メインコントローラ(一式)・M5ねじ(3本)・配管用継手類(一式)			

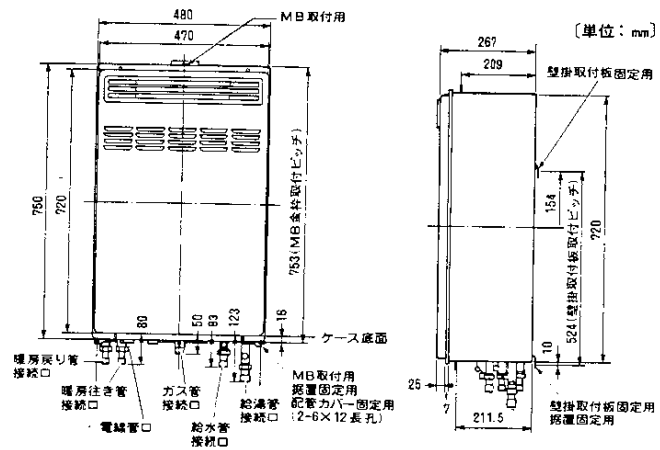
仕様②

使用ガス 使用ガス グループ	型 式 名	1時間当たりのガス消費量(kcal/h)				標準出力(kcal/h)	
		全ガス 消費量	給湯ガス消費量 最大	暖房 最小	暖房 ガス消費量	能力最大時 給湯	暖房
都市ガス用 6 A	AD-205RFA-B	/	/	/	/	/	/
6 C	AD-205RFA-C	30,500	24,500	77,600	8,500	19,500(13号)	7,000
13 A	AD-205FFA-B	32,000	24,500	7,600	8,500	19,500(13号)	7,000
L Pガス用	/	/	/	/	/	/	/

- 給湯能力の()内は、水温+25℃上昇に換算した号数です。
- 使用ガスグループ中の斜線部は生産しておりません。

外形寸法図

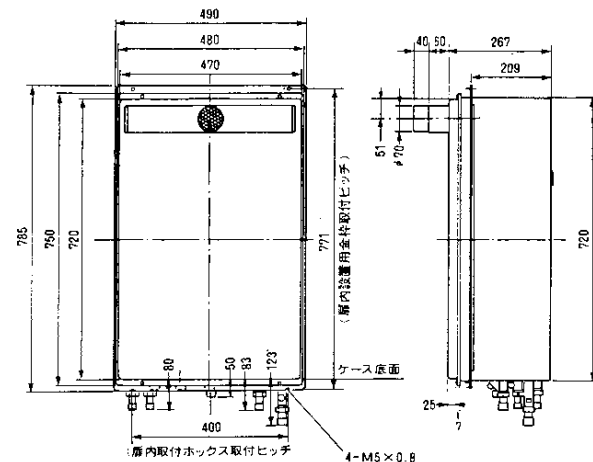
● 44-721



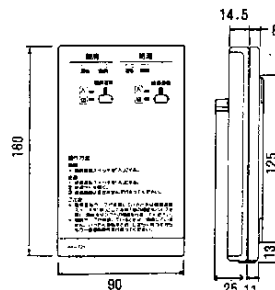
外形寸法図②

● 44-722

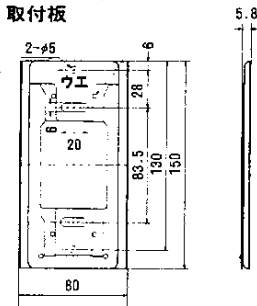
(単位: mm)



● メーンコントローラ

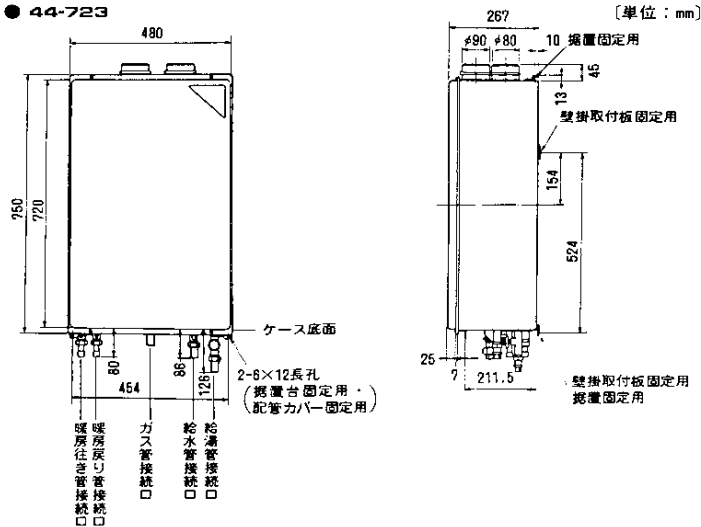


● メーンコントローラ
取付板



外形寸法図③

● 44-723



長期間使用しない場合

必ずガス元せん・給水元せんを閉め、メインコントローラの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、下記の処置を行なってください。

給湯側

●14ページの④水抜きによる方法を参照のうえ、水抜きを行なってください。

暖房側

●お買い求めの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションへご連絡ください。
調査のうえ、必要とあれば大阪ガス指定の不凍液を入れさせていただきます。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

●20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

●確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

- (1)品名……………ガス給湯暖房機<エックスMFRKII> <例>
- (2)品番……………前板下部に貼付してあります。
- (3)現象……………できるだけ詳しく
- (4)道順……………できるだけ詳しく

(N)44-721(U)

大阪ガス株式会社

744 721 01

(AD-205RFA)

転居される場合

ガスには都市ガス14種類およびLPガスの区分があります

●ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認のうえ、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。
この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証書について

この器具には保証書がついています

●このガス給湯暖房機は保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

おねがい

ガスくさいときはお部屋の元せんを閉め、窓を全開にしてから(火気に注意して)、大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。